○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時３４分）

◎議案第１６号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君）　日程第３、議案第16号　平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第２号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君）　議案第16号は、平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第２号）についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長　山本　公君　提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君）　以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○５番（高柳孝博君）　全般的なお話をしますけれど、基本的にはお客も下がっている、向上はしているとはいいながら、まだやはり下がっている。資産購入費のところでも600万円くらい落としているわけですよね。それから当然お客が入って来ないので委託費も下がっている。言ってみれば、デフレ傾向みたいな動きとなっています。やはりここは営業収入の方を上げなければいけないと思うわけですが、今年営業収入・・やってきたいろんな策をやってきたということ・・、いろいろやってきたわけですが、そのあたりの効果の具合というか、新たに進めてきたことについて若干そのあたりを・・、策というんですかね。それらの効果みたいなものがもしありましたら教えてください。

○企画観光課長（山本　公君）　まつざき荘指定管理３年の１年目ということでございまして、いろいろ改善計画をお示しして事業を進めてきたところでございます。

今年度料金改定なんかで夕食の部分を充実させたりすることによって、お食事の面でも充実をさせようということがございます。また、これまで輪番制のような形でお米を購入しておりましたけれども、ある程度１箇所から統一した銘柄のもので味が変わらないような形でいくというようなこともしております。

それから値引期間の関係ですが、富士山プラン、これは割引のものを行ったり、町民サポ

ータークラブということで町民が紹介して宿泊をすると1000円割引をしますよということの中で、１月末現在で1100人ほどの利用があったというようなこともございます。

また、グリーンツーリズムを活用した誘客をということの中で、わさび漬けの体験ですとか、あるいはふるさとガイド松崎の方に来ていただきまして、お泊りのお客さんに対して松崎の魅力を紹介するようなものであったりとか、あるいは今月の末頃になりますけれども、ノルディックのツアーのお食事、昼食の対応を受け入れたり、そのような形の中で体験メニューみたいなものも続けています。

それから、売店商品の売上の向上ということの中で、５パーセント割り引いて販売をしておりますけれども、それによりまして、去年712円くらいの消費単価だったものが766円、50円くらいですけれども上がっておりまして、それによって購買を図っているというようなことがございます。

それから営業活動ということで、昨年来営業活動が少ないのではないかというお話もございましたけれども、総支配人、振興公社の本部の鈴木事務局長なんかと山梨、長野ですとか、北関東方面にセールスに行ったりとか、あるいはターゲットを決めて県職員の共済組合ですとか、あるいは警察ですとか、そういったものに売り込みにいっております。

ついこのあいだ、３月１日にセールスの結果の中で、山梨県の昭和町と松崎町観光協会が協定を結んで、昭和町の方でお泊りになられる方に3000円くらいの補助券を出しているようなんですけれども、そういった加盟の・・、観光協会にさせていただきまして、その中でまつざき荘も入れていただいておりますので、４月以降、そういった方々の利用も図られていくのではないかと考えております。

○５番（高柳孝博君）　私の聞いたところでは、季節的な変動、お客の入客をみると９月10月というのは大きいというようなことを聞いたわけですが、そのあたりの分析は・・、一番低いというか、そういうところの分析をされているようでしたら、いつが低いのか。

○企画観光課長（山本　公君）　やはり夏前の６月が今年979人というような形です。それから９月が倍くらいはありますけれども、1302人というようなことでございます。

そのようなことで、富士山プランも秋口からまたうってみたりとか、そのお客様が少ない期間を中心にプランを設けたりしておりますし、営業につきましても先ほど申し上げましたように、社会福祉協議会とか、あるいはバリアフリーの宿というようなことの中で、障害者対応のお部屋もあるものですから、そういった形のものもお願いをしたりしておりまして、宿泊も何十人かもう来ていただいています。

○５番（高柳孝博君）　これは補正予算第２号の説明のところなんですけれど、宿泊利用者は2502名減っちゃったんですけれど、一方で休憩利用者は1500人増えているわけですよね。これは何か要因があるんでしょうか。

○企画観光課長（山本　公君）　町民の皆さんにもご利用いただこうということの中で、職員が手作りでチラシを作りまして、新聞折り込みをさせていただいて、その中で忘年会、新年会のプランですとか、あるいは法事ですとか、あるいは温泉利用ですとか、そういったものをＰＲしておりますので、そういった成果が出ているのかなと思います。

外の人ばかりではなくて、やはり町民の皆さんに愛される施設ということの中で、利用促進を図ってまいっているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　暫時休憩します。

（午前　９時５２分）

○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時００分）

○議長（稲葉昭宏君）　質疑を続けます。

○６番（土屋清武君）　町長、自分たちの事業をやっているというような審議をしているというような場に宿舎の営業支配人、総支配人とか責任者が、自分たちがこういうことをしているけど、議員の人たちはどのような見方をするのかというようなことの勉強のためにぜひこういう場へ出てきていて、勉強するというようなことは大いに必要だと思いますから、ぜひ今後はそのようにはかっていただきたい。参考になると思いますので、よろしくお願いします。

それで、実は今年国民宿舎のＯＢの応接が主体となって懇親会をやったわけです、宿舎50周年ということで。そして、初代の総支配人でありました山本源一さん以下、白井君、私なんかが・・、支配人が呼ばれたものですから、出席していろいろと意見等を懐かしみながら言い合ったわけです。そのとき、ＯＢの応接の職員からその当日玄関へ来ても誰も出てきていない。あいさつする人は１人もいないと、しょうがないからフロントまで行って、「すいません」と言っても来ないから、あそこにベルがありますね。あれを叩くとやっと出てくると・・、お客さんに泊まらせてやるから来いと、どうもそんな気がする。

それで、冬ですから乾燥しているわけです。宿泊施設・・、昔なんかは常に水を切らすこ

とはなかった。玄関に必ず水を打ってお客さんを迎えるという状態でしたけれども、今は全然そういうことをやっていないように感じるわけですけれど、そういうことがＯＢの人たちから私に、議員でいながら、どうですかと言われたりするもので、よく言っておいてくれということが出ているわけです。どのくらい、年に何回くらい接遇研修をやっているのか。昔は週に１回ずつ主任者会議でやって、月に１回全体の会議をやってというようなことで、意見を言い合って悪いところは直す、良いところは伸ばすというようなことで、常にそういう研修をしていたんですけれども、今どのような・・、どのくらい年間やっているのか、ちょっとそこらを・・、接遇研修の状況を教えていただきたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　町から財団法人松崎町振興公社へ指定管理ということで委託をしていただいて、そちらで運営をしていただいておりますけれども、当然振興公社の職員も議会の状況ということについては関心を持っておりますし、当然、今度テレビなんかも設置されておりますし、外で聞いていると思いますけれども。そうでなくても私どもが議会で出たことについては、こういうことが言われているよということでお伝えしております。

研修の関係ですが、なかなか正規の職員が少なかったりということの中で、臨時・パートで対応しているということの中で、なかなか厳しいものがあったわけですけれども、そういう中でも正規の職員を増やしたりしております。

営業改善に向けて、支配人、副支配人あるいは事務局長、舩津君が入っていろいろ打ち合わせをしたり、主任者会議についても何回かというのはちょっとわかりませんけれども、やっているということで伺っております。

それから、先ほど対応がなかなかできていない部分があるということの中で、ＯＢの白井さんに入っていただいて、これまで培った経験を職員に伝えていただくというようなことで、昨年からやっておりまして改善も図っているところでございます。いずれにしましても、やはりおもてなし、お迎えをする職員の心というのは非常に重要であるわけですので、今後もそれらについては、強化をしてやっていきたいと考えております。

○３番（佐藤作行君）　ちょっと教えてください。このところまつざき荘でもいろいろ法事のＰＲですとか、食事会のご案内あるいは朝食バイキングあるいは我われが時々食べている昼ごはんですとか、そんなのはいろいろやっているようなんですが、ここらの利用状況はどんなものか。

それから、あと、昨日話が出たふるさと納税のお礼なんかにもまつざき荘の宿泊券なんか今やっているんでしょうか。そこらは検討課題なんでしょうか。そこらをちょっと教えてく

ださい。

○企画観光課長（山本　公君）　まず町民利用の関係ですけれども、先ほどもお話をしましたとおり、新聞折り込みのチラシを入れましてＰＲをしておりますし、職員も知り合いなんかにお伝えして利用を図っていただくというようなことはしております。

今回休憩の利用人員を１万100人とさせていただきましたけれども、入浴で1000人くらい増やしまして会食で500人くらい増やしているわけですけれども、また先ほどお話のありましたように、朝食のバイキングということも平成25年のときに545人の利用であったものが、1259人ということで2.3倍という形の中で、町民も利用されております。

また、忘新年会なんかにも・・、ちょっと人数の関係は・・、プランという形の中でいきますと530人くらいありますけれども、そのような形で町民の方に利用されています。

あとふるさと納税の関係で、今回基金を設けたりとか、あるいは役場の中でチームを作って提供できる返礼品の検討をしている中で、やはりまつざき荘の宿泊券も加えていきたいというお話がありますので、取りまとめたものを今後返礼品ということの中で紹介をしていただいて、活用していただこうと考えております。

○３番（佐藤作行君）　そこらは了解です。それで結構個人的なことになりますけれども、２週間くらい前に、峰の４組合で役員の引き継ぎということで８人で夕食会を開いたわけですけれども、そのときの皆さんの意見、感想を聞いてみたんですが、そうしたら、食事はだいぶ前よりは良くなったなというような答えが多くて、結構私としてもよかったなと思っているわけですが、そこらは職員の方にもありがとうございましたと言っておいてください。

○議長（稲葉昭宏君）　答弁は。

（佐藤議員「結構です」と呼ぶ）

○１番（藤井　要君）　去年に比べてかなりの営業というか、そういう面では一生懸命頑張ってくれているということであります。それが数字にも若干表れているのかなと思うんですけれど、去年食事を充実させるということでやったわけですけれども、その代わり部屋の料金を下げたということで、その関係で宿泊よりは・・、やっぱりかけた分だけ増えたという感じは受けていますか。

○企画観光課長（山本　公君）　それが、直接それだけ人数が増えたかということについては分析はできておりませんけれども、「じゃらん」なんかでの夕食の評価も非常に・・、今まで4.１だったのが4.3くらいに評価も上がっておりますし、先ほど佐藤議員の方からお話が出ましたけれども、食事がよくなったねということの中で、地元の皆さんにも、じゃあ、法事

で使おうか、新年会で使おうかというような動きにも繋がってきておりますので、そういう面からすれば、まつざき荘にとっては、非常に効果があったかなと考えております。

○１番（藤井　要君）　それから、入浴客とか、そういう方が増えているわけですけれども、やっぱり町の皆さんが危機感を持ってまつざき荘を助けたいということを皆さん言っているんですよね。そういう中で食事のお客さんが増えたり、入浴客が増えたりしているんですけれども、そういう中の話を聞くと入浴客の方なんかも毎回行ってタオルをもらっているよということですけれども、そういうようにやってまつざき荘を助けているんですから、10回に１回とか、そういう面で何とかできないかというような声も聞くんですけれども、そういうことをやれば、ますます増えていくんじゃないかと思うんですけれど、その辺はどうでしょうか。

○企画観光課長（山本　公君）　町の方でいいよとか、悪いよとかという話ではないものですから、振興公社の方でも当然運営をしていることでもありますけれども、ただ、お客さまへのサービスの一つという、提案ということで拝聴させていただきまして、また、振興公社の方と相談させていただきたいと考えております。

○町長（齋藤文彦君）　必ず事務局長、支配人、副支配人が今月はこういうことをやりますと私のところに来るわけですけれども、そのときに先ほど藤井議員が言われました回数券というのは議長にも言われていますので、そのことは話してあります。

それともう一つ、どうしてもカラオケをやりたい人がいるからということで、いま下に事務室があるわけですが、あそこをカラオケに使えないかというような話があるけれどもどうだろうかというようなことで支配人には話してございます。

その回数券の件は、私もそれは本当にいいことだと思っていますので、それはちゃんと支配人に話しています。

それから土屋議員の方からもありましたけれども、こういうことで言われているよというようなことは支配人にちゃんと言っているわけですけれど、なかなかやっぱり100パーセントそのようなことができないところがあって、どうしても不満をもつ人が多いわけですけれども、私も何回も黙って行きますけれども、それなりに昔と比べて、それなりに対応しているなと、ここのところ痛切に感じているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○７番（関　唯彦君）　１～２点お伺いします。本当に町の利用者が伊豆まつざき荘に対していろんなことで増えてきている。伊豆まつざき荘の職員は頑張っているなというのが、これ

を見るとみえてきているんですけれども、ただ一番の問題は、宿泊利用がどんどん、どんどん下がってきているというのが気になるところですよね。

地元の利用率とか、そういうものはどんどん増えてはいるんですけれども、頑張ってくれて。

そこが一番問題で、この赤字になっているんじゃないかと思っているんです。ですから、そこを改善する必要があるんでしょうけれども、その辺の改善策というのはどう考えているんでしょうか。

それから、去年、伊豆まつざき荘いろいろ・・、やはり立て直していく上で、いろんな、食事・・、食事の内容はよくなっているし、いろんなことをやるということだったんですけれども、その辺の・・、もう３月末ですので１年間やってみて、どのような・・、宿泊に関して手ごたえがあるのかどうなのか、それを聞かせて欲しいなと思っているんですね。ただ、地元の利用率は上がってきていますから、本当に頑張っているなと思います。ただ、そこの改善できていない部分、その辺の反省とか、そういうものを教えてください。

○企画観光課長（山本　公君）　先ほど高柳議員の質問にもお答えをさせていただきました。いろんなメニュー、プランを用意してやっているということも一つでございます。

ただ、これまでなかなか営業活動が、向こうの体制が十分でなかったということがありまして、なかなか行けなかった、行けてなかったという部分がありまして、26年度においては、セールスあるいは商談会への参加、観光展への参加みたいなことを含めて19回くらい支配人とか、あるいは事務局長が一緒に行きましてＰＲをしております。山梨、長野あるいは北関東、あとはターゲットを絞って、先ほども申しましたように社会福祉協議会ですとか、県の職員の互助会とか、警察ですとか、そういったものにもお願いをしたりしておりまして、社協の関係ですと100人くらいの宿泊にも繋がっておりますので、今後そういった営業活動をより積極的に展開して、暇なときというんですか少ないときに入っていただくような努力をしてまいりたいと思います。

それから、お客様へのアンケートなんかも取っているわけでありまして、その中で食事の評価ですとか、あるいは先ほど申し上げました「じゃらん」の評価というのがございますけれども、それも上がってきておりますので、そういう面では、これまで取り組んできていることはそれなりに成果が少しずつですけれども、上がってきているかなとは理解しております。

○町長（齋藤文彦君）　まつざき荘を元気にするために・・、関さんにもよく言われるわけで

すけれども、松崎町として何ができるかということを考えているわけですけれども、借入金があったわけですけれども、借入先を松崎町の一般会計と松崎町温泉会計に替えて、これでちょっと楽になったところがあるわけですけれど、やっぱり松崎町に、お客さんに来ていただかなければどうしようもありませんので、松崎がやっているいろいろなイベントがあるわけですけれども、私もいろいろＳＢＳとか、いろいろマスコミのところへ行って宣伝してくるわけですけれども、それが直接返ってくるかわからないわけですけれど、結構テレビ放映されたりして、それなりのことができているのかなと私は考えているところでございます。

また、先ほど課長の方からノルディックの話が出ましたけれども、ちょっと体験メニューでノルディックと座禅を組み合わせたら、すぐに埋まったというような話を聞いていますので、いろいろ新しいメニューを盛り込んでいくとそれなりのことができるのかなと、目に見えてきた気がします。

また白井さんが中に入ってくれたことで、やっぱり白井さんはよくおれたちのときと時代が違うから、なかなか難しいよというわけですけれども、平成４年ですか、一番流動人口が多かったときに、97万人くらい松崎町は流動人口があったわけですけれども、今は34万人くらいと、もう本当に３分の１くらいになったわけで、それで７市６町がそれぞれ伊豆半島に来たお客さんを奪い合うというような形で非常に厳しいところがあるわけですけれども、やっぱり松崎らしさを出して、松崎に来てもらって泊まってもらえるような態勢を整える必要があると思って一生懸命やっているところでございます。

○副町長（佐藤　光君）　ただいまのご質問でございますけれども、来年度に関しましては、課長からの回答にもありましたけれども、６月、９月、やはり年間を通じて利用者の方が少ない月が必ずあるんですね。８月のようにもうかなり稼働率が高いところ、そういう時期は比較的営業的なものは必要ないかなと思います。ですので、やはり利用者の少ない月にいかに利用していただくかということが一つポイントになってくると思います。

いま町長の発言にもございましたように、そういう中でまつざき荘でいま利用者の方のマーケティングといいますか、利用の体系を考えますと、やはり健康とか長寿とかという形のものが非常にブームになっておりますので、そういった中で、ウォーキングみたいなイベントと合わせてそういった宿泊者の方に利用していただくとか、あと曜日的な分析をしてみますと、土日は比較的お客様に利用されていますので、そういったことを考えますと、やっぱりウィークデイにいかにお客様を集めるかということになると思います。ウィークデイといいますと、やはりリタイアされた方が比較的誘客をうちやすいのではないか。そういう方は

やはり健康志向といいますか、長寿・・、関心が高い方だと思いますので、そういった方々をターゲットにしまして、利用していただくようなプランができないかというようなことは考えています。

合わせてやはり夏休みの時期がずれた９月とかは比較的学生さんなんかはまだ休みの時期があったりしますので、そういったところからいいますと合宿の誘致といいますか、勧誘とかも含めて、そういったやはり利用者の少ない月を狙って、ターゲットを絞りながら利用客の増加を考えていったらどうかなということをいま振興公社と話をしているところでございます。

○７番（関　唯彦君）　そうですよね。そういうことを進めて、イベントとか、やっぱりそういう健康志向ということでする必要があると思うんですけれども、ただ単にそれをアピールするだけじゃ来ないと思うんですよ。やはり千葉みたいに観光業者とタイアップして、強引にバスで連れてくるみたいな・・、例えば日帰りとかいろいろバスツアーをやっていますよね、観光業者がね。宿泊でもやっていますけれども、安い値段で採算が合うかどうかはちょっと難しいところがあるかもしれませんけれど、そうやってアピールするだけじゃなくて、観光業者とタイアップして強引にバスに乗せて連れてくるみたいな、そういうことを千葉の方でやっていて、それが700台くらい年間呼び込んでいる。そういうことをやっている市があるんですけれども、やはりそのような感じで観光業者とタイアップしながら、もうバスでどんどん連れてくるということをしないと、来るのを待っているだけで、ＰＲするだけで、なかなか難しいんじゃないか。それは振興公社だけではできないものですから、町の協力なんかも必要なんでしょうけれども、この伊豆まつざき荘経営している振興公社もその辺を十分考えていくべきじゃないかなと思うんですけれども、いかがでしょうかね。

○企画観光課長（山本　公君）　バスで700台ということには、すぐにはならないと思うんですけれども、当然振興公社だけではなくて、観光協会と町連携した中で、宣伝はしておりますし、伊豆全体の中でも宣伝活動の中に参加をしてＰＲをしたりしています。

それから観光業者とのタイアップの関係ですけれども、クラブツーリズム、体験メニューを作ってバスで連れてくるみたいな部分のものもありますので、そこへもお話に伺って、例えばスケッチで来るとか、そういう部分の働きかけはしていますので、より今まで以上にもっとメニューを提案して、松崎町に来ていただけるような形をとっていきたいと考えています。

○１０番（鈴木源一郎君）　１ページ、宿泊利用者が2500人マイナスだということで、非常に

厳しい事態だということはこれを見ればわかるわけですが、問題はこの2500のマイナスになったというこの事態をどう当局がとらえ、どういうふうにしているかということで、これは全国の公共の宿の中からすれば、決して最下位の方じゃないと思うんですよね。

だから、厳しい状況で落ち込みになっていることはなかなか深刻に受け止める必要はもちろんありますけれども、ここの地点にあるんだと、我われのやっていることはやっぱり確信を持っていいじゃないかというふうにとらえることについて、これは経営をしている振興公社の支配人をはじめ職員自体も非常にこのごろ笑顔がいいように思うわけですけれど、やはり確信を持って仕事をするということがいろいろな接客にしろ、やっぱり非常に笑顔で迎えるということがもっと向上していくということになるんじゃないか。そこのところはどんなふうになっていますか。

それから、私どもは、岩科小学校・・、かつて何十年も昔の同窓会というやつをまつざき荘で毎年やっているわけですよ。今年もやるべぇということで４月に入ってすぐにやるわけですけれど、このあいだそれについての準備のためのいろいろの打ち合わせをまつざき荘ですると往復はがきも持ってきてくださいと、わしらの方で刷って仕上げますから、原稿を出してくれればやりますからと言ってくれて、そこまでやってくれるかいということで、大変便利を感じているわけですよね。

問題は、そういう類のサービスをまつざき荘はやっているんだよというようなことをいろいろな形でＰＲするということができているかと、あるいは別の問題で、板前さんがいて、料理をほかの宿とは違うような手作りをやっているというようなことが世間にわかるようにＰＲできているかというのが誠に不十分じゃないかというふうに思うわけですけれども、そこらの取り組みというか、具合はどうでしょうか。どんなふうに感じるでしょうか。

○企画観光課長（山本　公君）　人数の関係で2500人ほど減らしたというようなことがございます。まつざき荘だけの問題ではなくて、先ほど町長の方からお話がありましたように、全体の観光客数も落ちているというようなことがあるわけですので、その部分は町、観光協会あるいは伊豆半島の市町全体で盛り上げていくという取り組みもしてまいるところであります。ただまつざき荘についても、先ほど来いろいろ取り組みを紹介させていただきましたけれども、そういうものは積極的に続けていかなければならないと認識しております。

それから国民宿舎が109あるようですけれども、去年のランキングで28位くらい、過去は１番になったということも何年かあるわけですけれども、利用率で28位くらいの位置にございます。

少なくとも、いろんな取り組みをした中で、若干でも改善が図られてきている。お客さんが来ている。町民の皆さんも利用してくださっているということが振興公社の職員としても目に見えてわかってきていると思いますので、やはり取り組めば、こういういい結果につながってきているんだよというようなことで、さらに認識していただいて、赤字にならないようなより一層の取り組みを期待しております。

それから、先ほど同窓会の関係でいろいろご案内をということでございますけれども、やはり今までが機械的だったのかなと、お客さんのことを十分理解していなかったかなという部分がありますので、そういうサービスは積極的にやっていきたいと考えておりますし、ＰＲの方もそこまでこと細かには書けないわけですけれども、できるものはちゃんと先ほど町内へのチラシというような部分もありますので、そういうものに記載をしていくとか、あるいは利用された方がまつざき荘はこうだったよということで、ほかの皆さんに伝えていただければ、それで様子がわかってくるのではないかなと考えております。

いずれにしても、こういう取り組みをしていますよということは外へできるだけ伝えるような形にしてまいりたいと考えております。

○１０番（鈴木源一郎君）　やっぱり本補正を説明するについても、結局メインは・・、１ページに減補正だということがあるわけですけれども、だけどそれについてのこうだという確信を持った前向きな説明がくっ付いているというような、そういうような説明を心がけていくべきだと思うんですよ。いろいろのことについてのまつざき荘に関わるね。そうしないと、やっぱりまた今年も下がったのかということが先行して広がっていくというふうになって、どうしても下向き、うつむきになっていくということがあると思うんですよね。

それから、ＰＲもやると言っていますから問題ないですけれども、同窓会などでのお世話をしていますよということが何らかの形でわかるように、しみ出すように宣伝していく、ＰＲしていくということはもっと熟達してやる必要があると思いますよ。わからないですもん。ぜひそこを、あったら答えてください。

○企画観光課長（山本　公君）　当然経営を考えて人数とか、それは作っております。最終的には2500人の減という数字を上げさせていただきましたけれども、平成24年度の決算ですと１万9748人、25年度ですと１万8660人というようなことの決算数値が出ておりますので、マイナスではございますけれども、今年度、行政報告の中でも説明をさせていただきましたけれども、少しずつ上向きになっているということで、２月末現在の利用者が１万7547人ということで、去年より累計でも増えております。３月も去年並みにくれば、この目標、予定し

ている数値を上回ることになりますので、少しでもお客様が増えてきているということがまつざき荘の職員にもわかれば、やっている取り組みが間違っていないということが理解されると思います。

先ほどのＰＲの仕方ですけれども、やはりお客様にもう少しわかるような形の中で記載をしていきたいと思いますし、利用された方もぜひまつざき荘を盛り上げるんだということの中で、ほかの皆さんにお伝えいただければ大変助かりますのでよろしくお願いいたします。

○７番（関　唯彦君）　これで３回目になりますけれど、聞くのを忘れたのが、これを作っていてかなり危機感をおぼえているんだろうなというので、この補正を見ると思うんですけれど、昨年度末の内部留保が4500万円くらいあったのが、今年度1700万円ですかね、このままいくと来年度もつか、もたないかというところになっちゃって、本当の・・、もうぎりぎりのところまできているわけですよ。そういうところまできているものですから、ものすごく異常な危機感というのをぼくなんかはもっているんですけれど、その辺を作っている本人は十分承知していると思いますけれどもね。町長も。

その辺をもう一度改めて危機感というものを、伊豆まつざき荘の職員も、それから課長も町長も十分その辺はこれを作っていてわかっていると思いますけれども、その辺の話しをちょっと聞かせてください。

○観光施設管理係長（舩津直樹君）　その点については、本当に苦しい状況で、今年度も９月に資金の借り替えということで、現金を見ながら対応をしているところであります。

先ほども課長の方から話がありまして、２月が591人昨年に比べて増、昨年こういう結果があったものですから比較としては厳しいかもしれないですけれども、３月の今の現状、昨年と同時期と比べて70人くらいの増というような状況です。９月以降、割と増加傾向にあります。４月、５月、６月、７月の夏前、ここがまた一番弱いところでありまして、富士山プランの継続使用ということで、安売りではありますけれども、頑張っているところであります。

資金がショートするのではないかということは常に言われておりますけれども、当然来年度1500万円程度赤字になりますと本当に厳しい状況になってきます。ただ、先ほども言いましたとおり２月、３月はいい状況で、今回の補正よりも若干よくなってくるというふうにみております。４、５、６、７月の夏前が一番苦しい時期でありますので、また新しいプラン、また町民向けのプラン等を検討しながら人数の増加へ増やしていきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　町長はいいですか。

○町長（齋藤文彦君）　関さんの言うことは本当にぼくらも心配で、昨日福本君に三角形（△）、三角形（△）と言われて、頭が三角形（△）でいっぱいですけれども、本当にマイナスで頭がいっぱいですけれども、それはこれから本当に一生懸命やってマイナスにならないようにやっていきたいなと思っているところでございます。ただ、一言ちょっと言いたいわけですけれども、これはちょっとぼくも非常にうれしくなったわけですけれども、実は、道の駅が重点道の駅にネットワークで選定されて、静岡県でネットワークは日本全国で初めてで、国土大臣のところで非常にいい思いをしたわけですけれども、そのときに、ちょうど16回の松崎町の千枚田サミットをやった前のところの市長さんが新潟県の十日町の関口市長さんで、ちょうど関口さんも十日町市も道の駅に選ばれて、そこで話す機会があったわけですけれども、「齋藤君、まつざき荘に泊まって、そこから出したはがきが、子どもたちが喜んで、まつざき荘のことは忘れないよ」というようなことを言われて、非常にうれしく思ったわけですけれど、このようなことがありますので、前向きにぜひやっていきたいと思うところでございます。

○７番（関　唯彦君）　話を聞いていると、なんかあまり深刻に感じていないような・・、増えている、増えているということで、なんか・・、思っているんですけれども、本当に深刻にとらえてくださいよ、これ。本当に。

今回2800万円くらい使っているわけですから、あと1700万円ですから、このままいったら、本当に１年もちませんから、本当に深刻にとらえてください。それだけです。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○１番（藤井　要君）　これは参考資料の３ページになります。管理委託費明細の関係ですけれども、ここはこのあいだ、臨時職員を正職にしたということでモチベーション上げるということで、なっておりますけれども、これを見ますと、また期末勤勉手当のところが400万円からマイナスにしたりしていますけれども、そこのところで職員のモチベーションはどう保っているのか。

それから、私たちも研修に行っておりますけれども、なかなかああいう一つの施設ですから、勉強会というのがなかなかできないということで、どこも困っているようですけれど、施設が３つも４つもあれば、異動してその中でまた勉強ができるわけですけれども、先ほどそういうこともちょっと研修の関係も聞いておりましたけれども、その職員のモチベーションを保つということ、期末手当の減額、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　まず、研修の関係から先にお話しをさせていただきますけれ

ども、まつざき荘が12月にメンテの関係で休館するときがございます。そのときに職員の研修なんかもさせていただいておりますし、先ほど、主任者会議とか、あるいは内部での会議があったりするわけですけれども、そういう部分については、皆さんに伝えるような形のなかで情報共有を図っております。

それから、期末勤勉手当の関係ですけれども、当初予算で3.95とってあったわけですけれども、６月で１カ月、12月で１カ月の２カ月というようなことでございます。

当然経営状況をみながらということもございますので、なかなか、満額支給できればいいわけですけれども、経営の状況も考えながら・・、ただ徐々に成果が上がってきているという部分もありますので、そのことについては、今後の状況を見ながら対応させていただくように、これは振興公社の話になるというふうに考えております。

○１番（藤井　要君）　じゃあ、下がってきていてもモチベーションは上がってきているよという解釈でよろしいわけですよね。

○観光施設管理係長（舩津直樹君）　職員のモチベーションの話ですけれども、当然やはり職員の中には、ボーナスカットというところに対して、このままでこんなにずっとカットされているのであれば、辞めようかなというような考えを持っている職員もいないことはありません。ただ、私が昨年度就任してから職員の状況ですね。こちらの方が１年間経って、だいぶよくなってきたなというふうには感じております。そこら辺もモチベーションという意味では上がっているのか下がっているのか、職員それぞれの感じ方だとは思いますけれども、昨年から新規になった若い職員も２年目ということで、だいぶ仕事を積極的にやるような感じは受けておりますので、いずれにしても、そのアンケートの結果から見ましても、職員の対応がよくなっているというふうに受け取れるコメントが多くある。これは、モチベーションが下がっていないというふうに理解をしておりますので、今後も職員のやる気を上げるようなことも考えながら、先ほどの資金の関係も含めて対応をしていきたいなと思っております。以上です。

○議長（稲葉昭宏君）　藤井君、最後にしてください。

○１番（藤井　要君）　最後で。

それから、ちょっとこれはお客さんの方から聞いたんですけれども、いまマイクロバスがあるわけですけれども、営業じゃないわけですので、利用者さんのお宅からまつざき荘に直通で送り迎え、送迎はいいということで、途中で寄り道して・・、そういう例があったんですけれども、営業の関係とか私も詳しくわかりませんけれども、そういう免許を取ったりと

かはちょっと難しいんですかね。費用の関係、費用対効果もありますので、その辺のところを検討、どうかなと思うことと、先ほど町長が三聖苑の関係、あまり絵に描いた餅にならないで、なんでもかんでも飛びつかないで、やっぱり中身を吟味して着実にやってもらいたい。そういう点、最後の答弁をお願いします。

○観光施設管理係長（舩津直樹君）　今の送迎の件でございますけれども、通常緑ナンバーと言われる営業許可を取ったところでない限り、お金を取る、取らないに関わらず送迎というのはできないというふうに理解しています。この緑ナンバーを取るには、整備士の方を職員として雇用するというところなどもありますので、なかなか厳しいなと思っております。今後については、伊豆バスさんであるとか、東海バスさんと提携というところも含めて、ツアー的な形も含めて、やはりプランを作っていきたいなとは考えておりますけれども、なかなか職員の数も多くはないものですから、いま現状で進んでいないのが現状でございます。

○企画観光課長（山本　公君）　藤井議員の方から道の駅の関係、先ほどの町長の回答を受けてお話があったわけですけれども、道の駅の関係については伊豆半島の８つの道の駅をまとめて重点道の駅ということで国の方から選定をされておりまして、今後一体的な情報発信をしたりとか、あるいは伊豆半島をぐるっと回す、周遊を促すというような形の事業をしてまいるわけでございますので、それによって伊豆半島の中にお客さんに来ていただく、まつざき荘の方にも泊まっていただけるような形になっていけばいいなと考えております。

○５番（高柳孝博君）　先ほど従業員の方のモチベーションの話もありました。しかし、世の中では三方よしという言葉があるわけですけれど、売り手よし・買い手よし・社会によしという言葉があるわけですね。そういった中で、やっぱり従業員が給料がもちろん上がった方がいいわけですけれども、もう一つはお客様に満足していただくということが従業員の働き甲斐、満足につながるんだと思います。そういった意味で、先ほどのモチベーションが上がってくるという意味では、お客さんに満足していただかなければならない。当然の話なんですけれども、一つはターゲットが・・、世の中のターゲットが違ってきているのではないかと思うわけです。以前は観光バスで大勢で団体で来ていただいて、泊まっていただくというケースがあったかと思うんですが、最近よく言われているのが目的を持って来ると言われているわけですね。いろんな目的、一つはアクアラングで潜るとか、そういったのも一つの例でしょうし、あるいはイベントに参加するというのもそうでしょうし、そういった意味ではルートごとに調べる必要があると思うんですが、営業でやる部分、それからネットでやる部分、クチコミで来る部分、それからリピーター、チラシ、イベントで来る部分、それからト

ップセールスでやる・・、いろんなことをやられているわけです。それぞれのことでやはり分析していく必要があるのではないか。そこにどういうニーズで来てくれるのか、それによって、ターゲットが変わる。先ほどターゲットというお話がありましたけれど、どういう方を対象にして来ていただくかというのがやはりあると思います。そういう方というのは食事とかなんかではなくて、自分の目的としたことが満足すれば、満足を得られるわけですね。それらをやっぱり把握する必要があると思います。

おもてなしの一つの原則として、やはりお客様のニーズを満足できるか、一つあると思うんですね。ニーズを満足するだけではなくて、自分の期待以上にあったときに・・、よく町長が感動したと言われるでしょう。期待以上に・・、お客さんのニーズ以上にできたときに感動が生まれてくると言われているわけですので、そのあたり、その分析をどうしていくか。営業は先ほどやられたということなので、ターゲットを絞ってやるという話はあるし、そこら辺の考え方がありましたら、教えてください。

○企画観光課長（山本　公君）　高柳議員からお金の多さではなくて、ほめていただいたりとか、その満足から得られるものが大きいよという話でした。確かに、お客様から感謝される。ほめていただくということもやり甲斐につながりますので、そういうこと、今やっている活動がお客様に認められてほめていただけるようなことがあれば、より高くなってくるのかなと思っています。

それから、いろんな分析の関係ですけれども、年代ごとの分析ですとか、どこから来ているとか、あるいは電話で申し込みされているのか、インターネットから申し込んでいるのかという分析は当然やっておりますし、それに向けた対応をやっているつもりでおりますけれども、まだまだ十分でない部分はあるかもしれませんが、ターゲットを絞ったり、バリアフリーの宿というようなこともあったり、年齢の高い方に向けたものをやるとか、あるいは先ほど副町長の方からありましたように、健康志向の方が増えているので、それに関連した事業を展開するというようなことも考えられるかと思います。かかりつけ湯という協議会にもまつざき荘は入っておりますので、温泉と健康を通じたそういうメニューも今後生み出していくような形になると考えています。

○５番（高柳孝博君）　ひょんなことからノルディックウォークの方にもちょっと関わりまして、来ていただいて、こういうことでいらっしゃる方もあるんだなというふうに感じたわけですけれど、これからもそういうことを続けていくような感じですので、そこら辺にいろんな松崎の魅力、新たな魅力を発信するチャンスがあるのではないかと思います。

地方創生につきましても、松崎の魅力をどう発信していくか、どう磨いていくかというのが集客あるいは定住に向けてのやり方だと思いますので、そういった意味では、まつざき荘はリーディングヒッターになってもらいたいと期待が大きいわけですよね。

もう一つはインバウンドの関係で、国は1000万人の観光客を2000万人に・・、今年１千何百万人になったそうですから、倍までいかないんですけれど2000万人にしようという計画があるわけですね。そういった中で、なかなかインバウンドというのは入っていただけない。それは、一つは器がちゃんとできていないということもあると思う。もちろん交通の便もあるでしょうけれど、インバウンドをしっかりとるという必要もあると思います。

実は、松崎町にもバックを背負っている、いわゆるバックパッカーという方はもう来たりしております。そういった方に対して、本当にサポートできるかどうかというのは、新たな客を得るための手段として必要ではないかと思うわけです。

それとリピーターというのは、魅力というのをやっぱり感じていると思いますね。魅力があるから松崎へ来る。そういったところの分析の中で、そういう固定客は非常に大事にしなければいけないと思いますし、あるいはそこに何か展開できるヒントがあるのではないかと思うわけです。

ですから、一つはインバウンドの関係、その魅力、松崎の魅力というものを固定客がどうとっているか。リピーターがどれくらいあって、その方たちが増えているのか減っているのか、そのあたりをお願いします。

○企画観光課長（山本　公君）　リピーターにつきましては、25年度47.7パーセント、今年度が１月末現在ですが48パーセント、分母が違うというようなことで、いつも言われますけれども、それでも40パーセント台後半はございます。まつざき荘の魅力ですとか、あるいは町の持つ魅力、そういうものを感じて来ていただいていると感じておりますし、またそういう方々がクチコミで松崎町は良かったよ、まつざき荘は良かったよということを発信してくれれば、またお客様が増えてくるということにつながってくると思います。

それから外国人対応ですけれども、まだまだ松崎町の方は十分できているというわけではありません。伊豆の東海岸の方ですと外国人対応ということで積極的にやっている部分もございますけれども、まだまだ十分ではございません。外国人に対するおもてなしの研修会みたいなものも過去にやったことが・・、観光協会もそうですし、まつざき荘もそうですけれども、やったことがございますので、引き続きそういった、十分ではないですけれども、少しずつでも受け入れの態勢ができるような形にしてまいりたいと思いますし、道の駅の先ほ

どの連携の中にも外国人の対応を考えていきましょうというような動きもありますので、それらを活用しながら、外国人の対応もできるようにしてまいりたいと考えております。

○副町長（佐藤　光君）　ただいまのインバウンドの関係でございます。やはり皆さんご承知のとおり、東京オリンピックで自転車競技がたぶんですけれども、伊豆市で開催されるということがかなり濃厚になってきております。このあいだは、もともと私もラグビーをやっていましたけれども、本当に感激したんですけれども、ワールドカップが静岡県で開催されるということが決まりました。そういった中で、かなり世界に対して何らかの形で静岡県が情報発信する機会を得ているのかなと思います。そういった中で、やはり伊豆半島のこの観光地にも積極的に外国人の方をお迎えするという時代がくるのかと思います。そういった中で、やはり松崎町単発ではなかなか言葉の問題とか、迎え入れるインフラの問題とかがあろうかと思いますので、やはりこの辺は広域的な近隣の市町あるいは伊豆半島一体的な形での対応がどうしても必要となってくると思います。

そういったなかで、昨日の一般質問の中にもございましたけれども、来年度賀茂の県の機関として振興局もできますので、そういった中で、一つの共通の話題としてインバウンドの対応ということも近隣の市町と連携しながら、ある意味ソフト的な広域連携というものをしながら、対応していったらどうかなと考えておりますので、そういったことも一つの大きな課題として積極的に取り組むように、我われ行政当局と地域の皆様、民間の皆様も一体になってやってくれればなと思っております。

○町長（齋藤文彦君）　前半のことに答えたいと思うわけですけれども、今のお客さんというのは、自分で趣味趣向がはっきりしていて、それで本当にピンポイントで学ぶ、遊ぶということで来ますので、私はそれで体験メニューというのを目に見えるような形で作ってくれと、それでいま作っていますので、まつざき荘に来たら、これをやりたい、あれをやりたいというのができるのではないかなと思っています。下田は結構かなり詳しいやつが出ていますので、そのようなやつをやっていきたいなと思っています。

それで、関議員の方からさっき現金がなくなると、本当に真剣に考えてというようなことがあったわけですけれども、これは本当に内部で真剣に本当に大変な問題だということで、真剣に考えていきます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思いますが、こ

れにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　異議なしと認めます。

よって、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○９番（一瀬寿一君）　本案に賛成いたします。本案は年度末による減額補正ということで、皆さん方から大変なご意見も出ておりましたが、そのご意見は一つ参考にしていただいて、私からもこの内容について、以前から比べたら相当改善されてきているということで、少しは安心しているわけですけれども、しかしながら、まだまだ厳しい状況は続くかと思います。しかし、先ほど関議員からも言われましたが、私もちょっと心配しているのは、資金ショートしては困るなということで、夏が終わるときまではなんとかなるかと思うけれども、それ以降が大変に心配になって、町の方への返済財源がなくなってしまう、そういうようなことにもなりかねない。それなりに、これは赤字をどれだけ減らしていくか、頑張っていかなければならない。もちろん償却費から比率的にいくと大変頑張ってきています。そういうことで、職員もこれは非常に頑張っています。当局も頑張っているかもしれませんが、この威勢で、今回は中途になっていますけれども、私も決算のときにいるかいないかわかりませんけれども、いずれにしろ、これはいい結果が出るものと信じて、本案に賛成をいたします。

○議長（稲葉昭宏君）　もう一度本案に対する賛成討論の発言を許します。

○６番（土屋清武君）　議案第16号　平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第２号）、この案につきまして賛成するものであります。

この最終補正を見ますと、前年度と比較しますと相当な回復といいますか、赤字もだいぶ幅が縮んでくると。単年度でいきますと。前年度と比較すると、そのようにきているわけでございます。これは申すまでもなく、職員がそれなりに努力したと、その結果だということで、職員の頑張りについて非常に喜んでいるしだいであります。

先ほど私がＯＢ会のときの意見を述べたわけですけれど、ＯＢの人たちにおきましても、

公営の国民宿舎が県下で松崎町一つというようになった関係・・、より松崎町のこういう国民宿舎が他の一般企業に身売りというような話があった経過があるものですから、ぜひ公営の国民宿舎として存続させていきたいというようなＯＢ会の人たちの意見でもあると想像しますので、ぜひ今後・・、県下で一つの国民宿舎を存続するよう頑張っていただきたいということで、賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君）　これをもって討論を終了します。

これより議案第16号　平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第２号）についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君）　挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。

（午前１０時５９分）